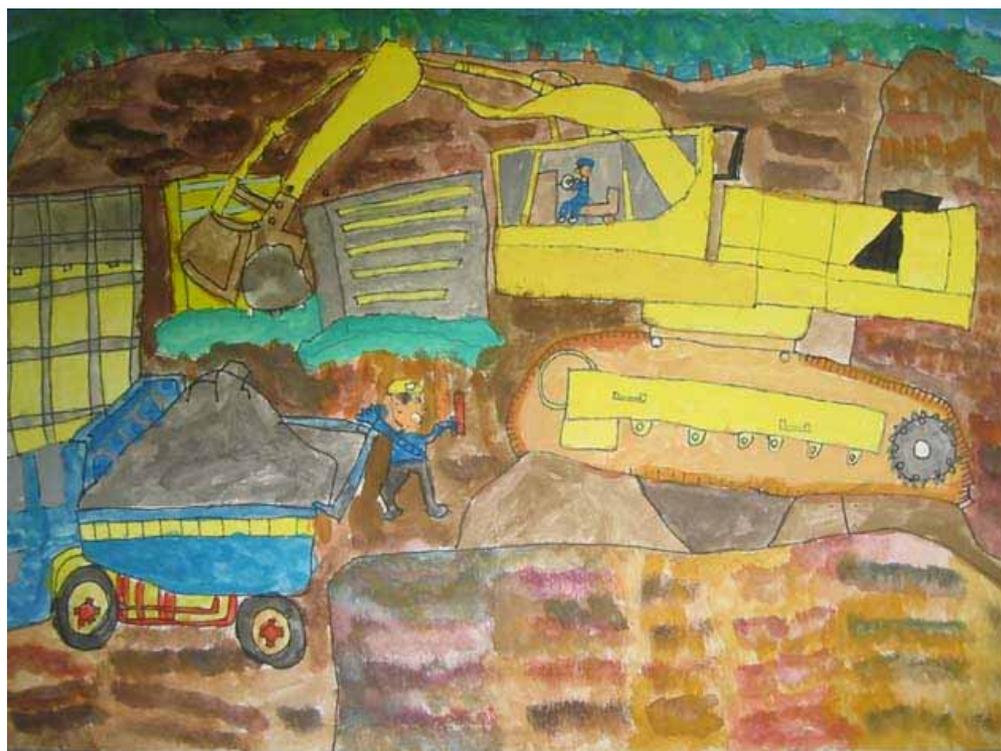


平成15年度 土砂災害防止に関する 絵画・ポスター・作文の受賞作品

絵画(小学生)の部 国土交通省砂防部長賞



(梁川隼輔さんの作品)

作文(小学生)の部 国土交通省砂防部長賞

題名:「みんなのちえで土砂さいがいをふせごう」

作者:来生唯奈さん

わたしは、さいきんテレビで、土砂さいがいがあったというニュースを見ました。道路が、どこかわからない。家も全部こわれてめちゃくちゃ。どろの中で、消防の人たちがスコップをもってはたらいっていました。そして、家族がけがをしたり、死んでしまったと聞いて、わたしは、なみだがでるくらいかわいそうになりました。

わたしは、近くで、土砂さいがいを見た事はありません。でも、もしわたしの家が、土砂さいがいになったらどうしようと思います。家族がけがをしたり、家がなくなってしまうたら、とてもこまります。かなしくて、かなしくて、ないてしまうと思います。今年はずっとより雨がが多いから、土砂さいがいが多いと家の人から教えてくれました。

わたしは、少し前に、雨をふらせる機械に入ることがあります。その時、すごく強い雨もありました。それはとてもすごくて、かさをもっているのがたいへんでした。でも、それは、たまにある強い雨にすぎないそうです。自然の力はすごいと思います。そして、いつくるかわからなくて、とってもきけんです。もし、いつくるかわかっていたら、はやくにげられて、家族のだれも、ケガなどをしないで済むと思います。

それでわたしは、はじめはそんなきけんがいつくるか早くおしえてくれる機械が発明されたらいいと思いました。そんな機械が、発明されたら、早くにげられて、だれもけがなどしないで済みます。

でも、その機械が発明されても、さいがいがおきてしまえば、家や道路がなくなってしまうから、本当は、さいがいがおきないようにする事が一番大切な事だと気づきました。

山の方をドライブしていた時、山のしゃ面をネットでかこんである所があったのを思い出しました。あれは、しゃ面の土砂がくずれるのを防ぐためのものだったのだと気がつきました。国や県では、いろいろな人びとがさまざまな方法で、土砂さいがいがおきないように工夫しているそうです。山に木やじょうぶな草を植えたり、山のしゃ面をコンクリートで固めたりすることです。川でも、流れてきた土砂があふれて大きなさいがいにならないようにいろんな工事をしているのだとお母さんから教えてもらいました。

わたしは、むずかしくてよくわからないこともあるけど、とにかく大事な家族や家をなくすことが一番いやです。みんなが、土砂さいがいのニュースを見たことをわすれないで、安全に生活していくために、いろんな考えをだしあっていくことが大切だと思います。きっといいアイデアがうかんでくるでしょう。そして、一人一人が自分のことを守るようにしていけば、土砂さいがいがおこらなくなるとおもいました。

作文(小学生)の部 国土交通省砂防部長賞

題名:「舞づる山の地すべり」

作者:蜂谷 千津瑠さん

「あれなあに？」

バスに乗っていたわたしは、いつもとちがう舞づる山に気がつきました。道路から見えた山に、青いシートが大きく広がっています。時々通るけれど、こんな様子は見たことがありません。

「何だろうねえ。」

いっしょに乗っていた先生も、何のためのシートなのかわかりませんでした。舞づる山は、天童でもたくさんのお客さんが来るところで、いろいろなイベントも開かれます。だから、わたしは、

「お祭りでもあるのかな。だからシートで場所とりでもしているのかな。」
としました。

でも、お祭りには、いつもとちょっと時期がずれているようだし、あんなに広くシートを広げて、いったい何をするんだろう？と不思議な気持ちでいました。

それから何日かして、学校で先生によびとめられました。

「千津瑠ちゃん、千津瑠ちゃん、あの青いシートのこと、わかったよ。」

先生の話は、こうでした。この前通った舞づる山で、その斜面がくずれてくる地すべりが起きている。だから、工事しなくてはいけないのだけれど、それまでの間、シートをかぶせて、そこを守っているらしい。

地すべり？わたしが初めて聞く言葉です。山がくずれてくるなんていうことも、このあたりでは聞いたことがありません。わたしはびっくりしました。

これまで、山がくずれてくるという話は、テレビや新聞で、ニュースとしてしか聞いたことがありません。それも、遠くの山の中とか、台風がよくくる地方とか……。

話していた先生も、

「まさか、舞づる山で地すべりとはねえ。」

と、おどろいて、信じられない様子でした。となりで聞いていた別の先生が、
「毎朝ね、舞づる山にさん歩に行っているんだけど、やっぱり様子がへんだったよ。」

と、山のことを話してくれました。山に登っていくと、赤いランプが三つ並んでおいてあったそうです。その先で、木がたおれかかかっていて、とてもあぶなくなっていたそうです。もちろん、その先に、入っていくことはできなくなっていました。

近くに果しゅ園もあるところですよ。くだもの木は、大じょうぶなんだろうかと心配になりました。

地すべりの話があるのは、この一カ所だけらしいので、その他の道は、さん歩に行っても安心だそうです。

くずれてきたところも、早く安心して通れるようにしてほしいと思います。

私は、山というのは、自ぜんがいっぱいで、自ぜんのまんまがいいなあ、と思っていました。でも、自ぜんそのまんまというのは、わたしたちには、ちょっとこわいこともあることがわかりました。

山の斜面を工事して固めてくずれないようにしたり、人にも自ぜんにもやさしい道をつくったりすることは、わたしたちの安心につながります。

山の斜面やがけなども、今は、コンクリートで固めるだけではなくて、自然の石を使ったり、草を生えさせたりする自ぜんにやさしい工事をしていると先生から聞きました。わたしたちの舞づる山も、コンクリートに固められた山にはしてほしくありません。

これから秋になると、舞づる山は紅葉できれいになります。それまでには、安心して歩ける山になってほしいなあ。舞づる山は天童でも有名で、わたしたちが大事にしていきたいところだからです。